

まち・コミ

7月号

1998年7月2日発行

発行

阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション〒653-0014 神戸市長田区御蔵通 5-5 兵庫商会 3F
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961
e-mail koitirou@mvi.biglobe.ne.jp
URL http://sakuraia.c.u-tokyo.ac.jp/mikura/

「災害の社会学的研究への招待～災害の社会的影響に関するデータベース～」

ホームページ ついに完成!!

早稲田大学の研究者が中心となって作っている「災害社会研究グループ」によって、「災害の社会的影響に関するデータベース」が、インターネットで見ることが出来るようになりました!!

中心メンバーは阪神・淡路大震災以前から災害についての研究をされており、これまでの研究による蓄積を一般の人でも入りやすいように内容を組立て説明しています（次ページに項目を載せてます）。

特に、阪神・淡路大震災に関しては、【過去の主な災害- 1) 阪神・淡路大震災】で、豊富な写真や、わかりやすい図表で災害の全容を説明しており必見！当グループで保管していた、田中社長による貴重な震災直後の写真や、“えっ！まだやってんの神戸”の金原雅彦君による定点記録写真なども使われております。そしてこれらのデータ・写真の整理は、“まち・コミ”のお手伝いもしてくれている、都立大学院生木村明子さんの、涙ものの努力の成果であることを私は知っています…。

さらに、【災害関係文献・資料などに関するデータベース（Bデータベース）】では、キーワードなどを入れることによって、浦野研究室や大矢根研究室（江戸川大）・他の研究者・“まち・コミ”の持っている文献の検索が可能です！「避難所」「仮設住宅」「ボランティア」「まちづくり」な

「災害の社会学的研究への招待」は“早稲田大学のホームページ”トップ (<http://www.waseda.ac.jp/acddb.html>) の“学術・研究活動データベース”の項目をクリックするとアクセス出来ます！みなさん、のぞいて見ましょう!!

18号より24号の登場!!



木村明子さん

災害の社会学的研究への招待
 災害の社会的影響に関するデータベース

▲ホームページの表紙

監修はいつもお世話になっている早稲田大学の浦野正樹教授。お疲れさまです！

もくじ
P 1・2 「災害の社会学的研究への招待…」
P 3 焼け跡のくすぶり ～九回～
神戸世相 ～きのう・きょう～
P 4・5 震災・まち・ひと 第6回
まち・コミ おすすめ BOOK

P 6 「公的支援」のあとさき-2-
うの目うおの目さちこの目?!
P 7 まち・コミ 活動報告
P 8 まち・コミ 今月も行く/募金・協力のお礼
カンパ・募金のお願い/編集後記

どの興味のある言葉を入れて検索すると、そのキーワードの入った書名・著者と出版社・発行年月日等が選ばれ、一覧として見ることが出来ます。

「ナントカシコイ!!」

文献検索の画面▶

項目別検索

文献・資料
データベース

項目を指定せずに検索 項目を指定して検索

検索開始 [クリア]

著者名
 タイトル
 出版者
 発行年月 年 月 ~ 年 月
 キーワード

<災害の社会学的研究への招待> 概要

◎災害研究の動向（概説）

●災害因の分類

●過去の主な災害

- 1) 阪神・淡路大震災
- 2) 関東大震災

●災害研究の領域（概説）

災害の社会学的研究の動向

- 1) 地域社会における災害対策とコミュニティ活動
—自主防災活動と「防災まちづくり」—
- 2) 災害時における地域住民組織の対応
—災害時の救援活動から生活支援、生活再建への道程—
- 3) 災害弱者への対応
- 4) 災害時のボランティア活動
- 5) 災害時の住環境
- 6) 生活再建へのさまざまな障害と政策課題

◎災害関係調査研究機関・NPO等に関するデータベース【Aデータベース】

◎災害関係文献・資料等に関するデータベース【Bデータベース】

◎災害社会研究グループの活動内容・活動状況

◎災害社会研究グループの公表論文（一覧）

（※下線の無い項目は準備中です）

「災害って何?」「災害に見舞われた場合、どういう問題が起こるの?」「その時私達の暮らしは?」— そういう分野を体系的にわかりやすく示した、簡単な媒体ってなかなかないと思います。でも、私達市民がある問題を真剣に考え改善に取り組んでいこうとしたときには、あらゆる情報が必要となります。それがなければ、問題に素手で立ち向かわなければならぬからです。

しかしながら、専門的なものをわかりやすくアレンジした情報が継続して提供されるというような工夫が、まだまだ足りない社会なのではないでしょうか。そういう意味でこの阪神の尊い体験が後に伝え生かされるための、ひとつの大きな手段となると信じて、皆様にも是非目を通して頂きたいと思います。

（あさの）

☆“まち・コミ”の文献については、神戸大学の学生さんや、兵庫商会の新入社員の素敵なお二人がボランティア研修で、データ入力して下さい、できました！ Thanks！

災害社会研究グループ

かねてから災害の社会学的影響について研究を進めてきた早稲田大学文学部社会学研究室のメンバーが中心になって、阪神・淡路大震災を機に、他の大学等の研究機関と緩やかに連携をとる学横断的なグループに改編、研究活動を展開してきた。

焼け跡のくすぶり（九回）

【神戸港の思い出】

「子供の頃の神戸はいい所だった」というのは感傷だろうか。昭和二十年代後半の中学時代、四、五突辺りに碇泊している米国軍艦の一般公開に、長田から貸自転車（その頃一日二十円）で、友人と連れだって見に行った。帰りに艦上で雲を衝くような水兵から両手一杯クッキーを貰った。一口頬張ると、これが何とも言えぬほど甘くうまい。アメリカ人はこんなふうなもんを食うとったんかと驚いた。翌日学校で報告すると「ほんまか、ほな俺も連れていけや」となり、放課後大挙して行く。またもや両手に一杯くれる。よく無尽蔵に出てくるもんだ。時に空母の一般公開もあり、水深の関係で港外に碇泊する時でも、わざわざランチに乗せての送り迎え。税関線（今のフラワー通り）に輸入中古車が並び、やれリンカーンだ、シボレーだ、フォードだと言いながら、ポロンとエンジンがかかる。それっ、と後ろに廻ってガソリンの臭いを嗅ぐ。「なんとええ臭いやなあ」「こんなでっかい車が二人に一台やて」「アメリカはほんまごっつい国やで」「人間もでっかいし、食うもんも全然違う。こんな国と戦争したら負けんの当たり前や。そんなこと俺らやてわかるで」「大人はアホやったんやなあ」と口々に言いながら帰る。一方、南米移民船のぶらじる丸やあるぜんちな丸、さんとす丸で色とりどりのテープが入り乱れ、ドラと汽笛が錯綜し、家族連れ、或いは角帽を被った学生などの出ていく人々、そして岸壁で涙を流し、今生の別れを惜しむ残る人々、大声で叫び合い、手を、角帽をちぎればかりに振る、その出港の悲壮で切ない情景は、今も臉に焼きついている。

こんな感動と感傷のある十代前半を送らせて貰った。物はなくても、金はなくても、子供心に新しい発見があり、心豊かな自己確立時代であったと思う。

（株）兵庫商会 田中 保三

～神戸世相～きのう・きょう

◎大切なのは「ビック・ジャーナリズム」、災害報道の経験を報告、WAN 1998 KOBE (98.6.3 神戸新聞) 「第5回世界編集者フォーラム」の分科会(テーマ「災害時の新聞編集」)で、大洪水によって社屋をい失いながらも発行を続け、今年のピューリッサー賞を受賞した米国ノースカロライナ州グラントフォークス市の地方紙「グラントフォークス・ヘラルド」編集長が体験報告した。コミュニティー再生を支援し、地域に発言力を与え、町の将来像を市民と共に描く姿勢を「ビック・ジャーナリズム」と表現、「読者が必要とするものを伝えてこそ、新聞は活力を持つ」と語った。

◎公的支援で市民団体、支援拡大など取り組み確認、芦屋で報告集会(98.6.20 神戸新聞) 「災害被災者等支援法案」(市民立法案)の廃案を受け、実現に取り組んできた「市民＝議員立法実現推進本部」(小田実代表)は、市民立法案の実現や、被災地での公的支援拡大に引き続き取り組むことを表明。参加者全員で、全ての被災者が救われるまで運動を推進していくことをうたった「6.19声明」を採択した。

◎仮設の悩み語り合う、自治会代表や住民らが交流会、「強制的廃止反対」を決議(98.6.21 神戸新聞) 県内約50カ所の仮設住宅の自治会代表者や住民で組織する「神戸仮設住宅ネットワーク」が、年に1度企画する会の3回目。「孤独死」が後を絶たない問題や公営住宅への入居が決まらない住民の不安、今秋に支給される予定の被災者自立支援金について「仮設入居中は対象外」となることへの不満などが語られた。「仮設住宅廃止のための強制的手法がとられる場合、人間の誇りのかけて抵抗せざるを得ない」などを決議した。

◎教訓や課題 データと資料で紹介、大震災復興誌第2巻が完成、県が編集・発行、ボランティアにも焦点(98.6.23 神戸新聞) 生活再建の話題を中心に1996年4月1日～97年3月31日までを収録。巻末には震災関連のホームページアドレス一覧も。全国の自治体・行政機関・大学に配布。県内の図書館にも設置されている。



復興貸貸抽選、仮設の2093世帯落選、他の被災者も8割外れる(98.6.27 神戸新聞) 兵庫県や神戸市などは26日、災害復興住宅賃貸住宅の入居者募集の抽選結果を郵送通知した。募集戸数6953戸に14035世帯が応募、4323世帯が当選(うち仮設住宅居住者2594世帯)。仮設外の被災者からの応募は6263世帯で1518世帯が当選。8割強が落選した。同市は7月中旬から特別あっせん登録募集を始め、9月末までに仮設入居者全てに恒久住宅への移転のめどが立てられるよう取り組んでいる。

震災・まち・ひと

— 第 6 回 —

住まい再建へのレシピ②

～ Puresent by 神戸パースペクティブ～

「魚崎市場」再建から学ぶ 自力再建のみちすじ その1



H11 年完成予定のモデル図

東灘区魚崎地区に位置する魚崎市場は震災で北側2棟を残し全壊。市場としては20年前から衰退の一途を辿っており震災直前には営業件数は24中軒中9軒で、ほかは住居として使われていた。



関西建築家ボランティア
野崎隆一氏
(遊空間工房)

震災後、灘区魚崎地区を中心に住宅再建の支援活動を展開。マンション再建・共同化再建にも数多く携わる。

今回の「震災・まち・ひと」は 6月19日に行われた「神戸パースペクティブ」の際のお話を基に再構成しています

野崎先生
ひとこと補足

まずは地主、借地人、店子との関係をしっかり押さえていないと再建のビジョンが当然描けない。ところが同じ場所でも何十年も住んでいる方の場合、権利割合が曖昧になっている場合が多いんです。

権利関係等の状況把握

阪神魚崎市場は、戦前からの個人地主であるM氏の土地1,092㎡とS酒造の土地533,87㎡を借地して4棟24店舗で合資会社としてスタートし、昭和36年の合資会社解散に伴い市場の建物は、個々の権利者に分配され個人の所有となった。その後、共有地の空地に新たに建物が建ったり、個々での増築が行われたりして現在に至っている。

親子3代など、長年に渡る借地関係のため、互いの借地権割合が不明確になっている。

合意形成 ←→ 権利調整

<地主との借地権割合の協議>

敷地の3分の2は個人地主M氏であり、残り3分の1はS酒造である。当初よりS酒造は条件さえ合えば底地権を譲渡する意向であったので、M氏との交渉が先行。底地買い取りを申し出たが拒否。権利持分割合で共同事業をと提案したがそれについても拒否。その内、神戸市が都計道路の為の買収に入り、市場の一部もその対象となったため、期限を切って神戸市より借地権の割合を決めるよう迫られることになった結果53%で決着する。がその後、借地権割合で土地を分割する案が浮上し、再び借地権割合で紛糾、早期再建を実現するためということで50%で市場の権利者を説得、地主との間で交換契約が96年12月に締結。

<従前権利の確定>

従前権利の元になるものとしては、建物の登記簿と地代の支払い割合しかなく、震災前の地代徴収の根拠についての疑問が数人の権利者より出されていた。神戸市が買収対象地を確定する測量の際に、市場の店舗境界を全員が立ち会って測量図面に落としした(右図参照)。ところが、個々の専有面積割合で出した権利持分



魚崎では建築家によるボランティアチームが活動していて、その内3人が担当しました。1人がコンサルタントの役割を1人が商業アドバイザーをもう1人が設計者の役割を担いました。

借地権割合とは土地に対する権利が地主：借地人＝6：4とか5：5という割合で分けることを指します。明確な物差しがないので当事者間の協議で決めざるえないのです。

借地権の場合、登記はあくまで建物だけなので、複数の借地権者がいる場合、境界もすれば土地の境界が曖昧になって全体の中での自分の持ち分が不明確になる場合があります。その場合は権利者で協議して一定のルールをきめなければいけません。

土地には名義と税金の問題がつねにつきまといまいます。2世代・3世代に渡り居住されている方の場合、「相続」の手続きは合資不可欠。この場合は「まちづくり支援機構」という共同化機構やまちづくりを支援するグループから専門家を派遣してもらい、法律・税務・登記の問題を解決しわけです。

ここではデベロッパに頼らない自力再建を目指したので、資金も基本的に自己調達。ですから1人でも権利者が抜けると大変なわけです。資金力がある方々に先行投資していただき、それを基金化して、その財源で危機を乗り越えたわけです。

と、地代の支払い割合で出した権利持ち分が大きく食い違う結果となり、その最大誤差は30%を超えた。測量図を元にするか、地代支払いによる割合で行くか、どちらも決められない状態となり、96年9月の総会で2つの考え方による権利割合の違いを全員に示して、どちらの案にすることも出来ない妥協案を探るしかないと説明した。しかし、予想通り紛糾、翌年1月の総会までは進展しなくなってしまった。その後、妥協案を提示、確定申告の期限ぎりぎりとなった2月の総会でやっと持分割合が決議された。

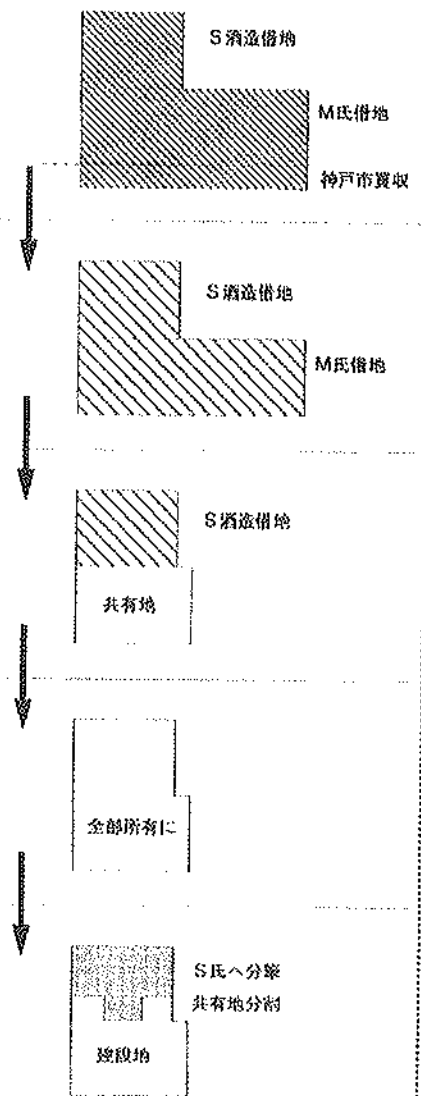
<相続問題>

借地権という実態のない形であったためか、地権者18人の内6人が既に死亡して名義変更しないままであった。いずれも震災での死亡ではない。この件に関しては、1月の総会から「阪神・淡路まちづくり支援機構」から、弁護士、司法書士、税理士の派遣協力を受け、1ヶ月足らずで相続権者の確認から権利放棄確認書、遺産分割協議書の作成を全てやる事が出来た。

<転出者>

個別の意向ヒアリングを重ねてきたが、98年の1月の総会で、5人が権利を売却し、マンションによる再建には参加しないことが確定した。そこで、地主M氏の土地の登記をする前に借地権売買契約をしてしまうこととなったが、買受人を5人出すのがまた困難だった。結局無理を言って資金計画で自己資金割合の大きい権利者に頼んで先行投資をしてもらった。その結果、地主M氏との交換土地は転出者を除いた形での登記が実現した。

土地権利の変遷



次回も引き続きを魚崎の例をご紹介します！ご意見・ご感想・ご指南求めます！（おの）

まち・コミ おすすめ BOOK

『今、まだ、やっと… 阪神大震災 それぞれの4年目』

発行：阪神大震災を記録しつづける会 発行：神戸新聞総合出版センター

阪神大震災の被災者自らが自分の被災体験を綴った手記集の第4巻。昨年10月末までの1年間に寄せられた143編のうち、52編が掲載されている。

「疲れた。本当に疲れた。胸がはりさけそうになるくらい苦しい。」仮店舗での生活再建に苦しむ自営業者……「地震は彼らをまるでリトマス試験紙のように判定してくれた。」転職・離婚など生活の激変の中で人のつながりを冷やかに見つめる中年男性……「お父さん、お母さんに今までと同じようにパワーとエネルギーを送り続けてあげてください。」天国の2人の孫に語りかける祖母……。

それぞれにおかれた状況の中で、生活のみならず、身体的・精神的な復興に取り組む生の声は、3年経ってもなお ーいや、3年経ったからこそ聞かれるものではないだろうか。

(ざがい)

今、まだ、
やっと…

阪神大震災
それぞれの4年目



「公的支援」のあとさき -2-

左に載せた「ロゴマーク」が目印の短期集中企画「エイド」。「震災しみん情報室」「阪神大震災を記録しつづける会」「まち・コミュニケーション」の3つのグループが共同で企画しました。5月末にFAXで最初の「メッセージ」を送信、6月2日には「準備会」として約30名余りの方々に集まっていただきこの企画についての様々なご意見をいただきました。

支援法制定にともない、被災地でも復興基金を利用した支援金の支給を巡っての議論や運動がなされていますが、この「エイド」で目指すことは、直接現金給付による「支援」にとどまらず、現在でも被災地の方々に様々な「支援活動」を行っているグループ・個人の方々の内容や課題をみんなで共有し、



互いの「顔」を知ろうというものです。すなわちそれが二つのコンセプト<さまざまな分野・地域の団体が、それぞれの課題を持ち寄り、情報を共有する><活動する地域やテーマを超えて、「市民 自身による公益的な活動」という共通の 基盤を持つことを確認し、今後の連携や協働の一助とする>で、それを<アンケート実施> <公開フリートーク>という具体的な動きで実現しようというものです。

というわけで、アンケートは6月中頃に阪神地区を中心に約150件発送、6月末までに約80件回収し、6月28日（日）の公開フリートークを迎えるわけです。（つづく）※28日に回収分を全てコピーし、来場した方にお配りしましたが、もし興味のある方はご一報下さい！



「公的支援」実現の先に見える
NPO・NGO が創る「公益的」な支援

うの目うおの目さちこの目?!

—「御蔵の街かど」は先々月で終了させていただいて、今回からは“気まぐれエッセー”で、登場させていただきます。—

少し前の話になりますが、神戸市中央区の県庁のすぐ北側の目立たないところにある、「竹中大工道具館」に行って来ました。ここには日本で古来、飛鳥時代に使われていたものから、だんだんと機能が向上してゆくプロセスを順に追いながら、明治時代くらいまでの数々の大工道具が展示されています。かつて、今のような板を水平になめらかにするカンナ（“台ガンナ”という）がなかった時代は、^{やり}鑿ガンナという大きな先の曲がった彫刻刀みたいなもので、少しづつ板の平面や柱の丸みをだしていったというのには驚きました。また、当然今のような電動の裁断機はありませんから、大木から板を切り出すにも、大きな大きなノコギリを二人一組で丸太に当てて切り出してゆくわけです。これひとつでどれだけの重労働でしょう！ そのほか柱と柱をしっかりと、しかも強度を保ったまま結合させるために、千年以上にわたる先人たちの工夫が幾通りも生み出されています。また、ふすまや窓枠の鴨居の溝を生み出すための、小さな幅の調整もできるいろいろなカンナなど、すてきな道具たちに3時間も見入ってしまいました。建築関係の方はもちろんご存じでしょうが、素人の私としては衝撃でした。だってね、ものすごいんですよ、その知恵と技は！！ 小学校の図工の時間に下手な絵を無理に描かせる回数を減らして、大工さんのところに見学とお手伝いに行った方が、よっぽど想像力と創造力をかき立てられるのではないのでしょうか。



▲鑿ガンナ

「いったい古い時代の日本の建築物は、一つできあがるのにどれだけの時間と労働力を必要としたのだろう」「そしてそれはどの時代に建てられたかで違うんだなあ」と思うと、無性に寺社の見学に行きたくなりました。そんな文化にまだまだ触れることができる幸せを、日本人としてみんなで大切にしてください。是非みなさんも一度大工さんの世界をのぞいてみましょう。

（あさの）

まち・コミ活動報告

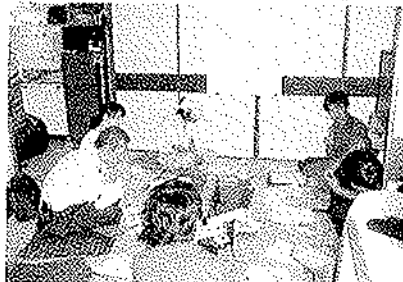
共同再建支援

「業者選定」を終え、公団への「企画提案」へ

ゼネコン6社への業者見積もりを終え、建設組合役員と武田先生による選考の結果、(株)山田工務店が共同化住宅の建設会社として選ばれました。これで組合・デベロッパー(住都公団)・建設会社(山田工務店)の3者が揃い踏みし、次は住都公団への正式な申し込み＝企画提案を行うこととなります。

勉強会の企画

「神戸パースペクティブ」始動！ オープニングは野崎隆一氏



6月19日(金)、「震災しみん情報室」オフィスにおいて、「神戸パースペクティブ」のオープニングとして、関西建築家ボランティアの野崎隆一氏(遊空間工房)に、灘区魚崎地区魚崎市場の再建を例に、住宅再建の課題についてお話しいただきました(お話の一部は今月の『震災・まち・ひと』に掲載されています)。

◀スライド映写も取り入れて

その他

支援活動の今を知る、「エイド」無事開催

左記の記事でも触れました「エイド」。このときの模様とアンケートの内容を整理した小冊子を、この7月末に発行予定。「エイドの会」は、その時点で解散の予定。

ランチ一食募金提供「神戸ONELOVE」の収録行われる

(株)キングが発行するフリーペーパー「**DICTIONARY**」。隔月発行で、5万部が全国のCD屋さんや洋服屋さんにおかれてるおしゃれな雑誌です。この「**DICTIONARY**」の誌上では、震災後「ランチ一食募金」(昼飯一食ぐらい抜いて募金しよう!)を呼びかけています。この募金をスポンサーとして、この4月より「神戸 ONELOVE」というラジオ番組が始まりました。東京(渋谷)・神戸(長田)・福岡(天神)・大阪・倉敷のコミュニティFMがこの番組を放送しており、今後新潟でも放送される予定です。「まち・コミ」では番組当初より制作に協力。神戸の様々な方々に、この番組で思いの丈をおしゃべりいただいています。DJの桑原茂一氏は「この番組が日本中のコミュニティ放送局で流れるようにしたい!」とおっしゃってます。もしかしたら、みなさんのまちでもお聞きになれるかもしれませんよ! —◆SHIBUYA-FM「VOICE」(78.4Mhz)◆神戸FM わいわい(77.8Mhz)◆天神FM「FREEWAVE」(77.7Mhz)◆FMくらしき(82.8Mhz)

震災関連新聞記事プロジェクト じみ企画

月刊『まち・コミ』の編集が終わると、その月の新聞記事のうち、20～30ぐらいの代表的な記事をコピーして冊子にし、早稲田大学浦野研究室とSVA(曹洞宗ボランティア会)に送付してきました。しかし2カ所だけではもったいないと、このたび真剣に防災や地域づくりに取り組んでいらっしゃる団体・個人・大学の研究室などに定期的にお送りしてはどうかと、先月13カ所にアンケートをつけて試験的に送付させていただきました。まだアンケートはすべて返ってきてはいませんが、今までの反応は「是非!」というもので、郵送料と印刷経費のみいただき、今年度いっぱい続けてみようと思います。ご希望の方はこちらまでご連絡ください!

まち・コムも行く!

6月のご覧の通り、共同化関係、そして短期企画「エイドの会」で突っ走った1ヶ月となりました。
震災後3年半を迎える7月は、エイドの小冊子作成、奥尻ツアー…内へ外へと活動します。(“事務所大改造計画”については……百聞は一見に如かず?! 是非遊びに来て下さい) (さがい)

6月

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 6日 長田南小学校高取山ハイキング参加 | 19日 早大「社会参加とボランティア講座」パネリスト参加
神戸パースペクティブ オープニング (野崎氏) |
| 7日 みくら567わが街の会 クリーン作戦 | 23日 みくら5-5ボランティア共同事務所管理組合会議 |
| 10日 御蔵5・6丁目町づくり協議会 | 25日 共同化 預託金の覚書取り交わし |
| 12日 共同化 埋蔵文化財試掘&業者見積受取 | 27日 共同化 弁護士と打ち合わせ |
| 15日 共同化組合会議 | 28日 エイドの会 公開フリートーク |
| 16日 共同化 業者決定 | 29日 共同化 公団との打ち合わせ |
| 17日 協議会役員と上月町夏まつり打ち合わせ
仮設支援者意見交換会 | 9・23・26日 わが街の会 フェニックス活動助成打ち合わせ |
| 18日 「神戸 one love」収録イベント (~20日) | 2・7・8・10・11・22日 エイドの会 打ち合わせ |
| | 22・29日 NPOフォーラム打ち合わせ |

募金・協力 (6/1~30)

ありがとうございました! (敬称は略させていただきます。)

●募金●

町田有三 (東京都)
馬場裕子 (東京都)
遊空間工房 野崎隆一 (神戸市)
遠藤勝裕 (埼玉県)
岩本隆通 (神崎郡)
名淵良隆 (東京都)
西須磨だんらん 日笠昭子 (神戸市)

立命館大学震災復興研究グループ 吉川忠寛 (京都府)
㈱山田工務店 取締役社長 山田俊治 (神戸市)
㈱計画技術研究所 林 泰義 (東京都)
㈱富士総合研究所 山本晃司 (東京都)

●協力●

㈱兵庫商会 (神戸市)
曹洞宗国際ボランティア会 (東京都)

お詫 先月号にお名前の漏れがございましたのでここに掲載させていただきます。申し訳ございませんでした。
澤田修一郎 様 (京都府)

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。
今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願いたします。

【郵便振替口座番号】00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」

また、この通信紙を継続的にお読みになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

- ★98年も半分が過ぎました。最近、自分のペースをのんびりのんびり取ることを重視。そうすると周りが見えてくる! でも、その分仕事の能率が落ちる部分もありますがね…! う~む (浅野)
- ★働けども働けども仕事が終わらない…。仕事の仕方が悪いのか、量が多いのか、酒を飲み行くのが悪いのか…あー夏がまたくる。(小野)
- ★先日、学生時代の友達に7年ぶりに再会しました。動乱のインドネシアから帰国した彼女。変わらぬ笑顔に向かいながら、それぞれに等しく流れた時間を感じました。(酒井)